

## スプリングフィールド大学のプレイレベルとヤングジャパン戦の見どころ

### ◆NCAA の「ディビジョン」と「カンファレンス」

よく耳にする NCAA の「ディビジョン」や「カンファレンス」と言う枠組みがありますが、ディビジョン I、II、III は、日本の学生リーグのように競技ごとに、また、強い順番に I、II、III と単純に分けているわけではありません。

例えば A 大学のバスケットボール部は関西 1 部、野球は 2 部、ラグビーは 3 部といったようにばらばらに競技ごとにレベル分けをするのではなく、その大学の競技スポーツ全体が評価されるので、どの競技も同じ「カンファレンス」「ディビジョン」に属します。

では、どういった基準で I、II、III を分類しているかといえば、細かな規定があって、特にディビジョン II からディビジョン I に昇格する場合は面倒な手順を踏まなければならない（説明は省略）のですが、かなり大まかな言い方をすれば、その大学の保有するスポーツチーム数（競技数）が多ければディビジョン I、少なければディビジョン III になるということだったりします。

仮にかなり強いバスケットボール部を持っている大学でも、その大学が小規模で保有するスポーツチーム数が少なければディビジョン III に属するという事もあります。

大規模大学（有名大学）、入学条件（奨学金など）、環境条件（施設設備やチームスタッフ）などの諸々の条件上、基本的にはディビジョン I のレベルが高いのですが、ディビジョン II や III のチームがディビジョン I のチームに勝ってしまうという事もあります。

そのようなチームからは、個人的に優れた選手が排出されていて、バスケットボールの場合はディビジョン I 以外の大学出身のプロ選手は珍しくありません。



#### ◆スプリングフィールド大学のプレイレベル

スプリングフィールド大学は、現在 NCAA ディビジョンⅢに属しています。

現在ディビジョンⅢには、400 校以上のチームがあるようです。（注:バスケットボールチームがない大学もあり正確な数は把握していません）

所属カンファレンスは New England Women's and Men's Athletic Conference (以下 NEWMAC) で、2013-2014 シーズンはスプリングフィールド大学を含む 4 チームがこのカンファレンスから NCAA ディビジョンⅢトーナメント、つまり全国大会に出場しています。

2013-2014 シーズンこのトーナメントに出場したのは、62 チームなので、まずこの段階でスプリングフィールド大学がディビジョンⅢで全米 Top60 程度の実力があることがわかります。

スプリングフィールド大学の 2013-2014 レギュラーシーズン順位はカンファレンス 3 位です。そしてレギュラーシーズン順位 1 位のウースター工科大学とのレギュラーシーズンでの対戦成績は 2 敗ですが、ホームアンドアウェイの対戦のうち不利なアウェイ戦は 1 点差の惜敗です。

ディビジョンⅢでは、毎週全米 Top25 を発表していて、スプリングフィールド大学は最終順位では Top25 に入っておりません。この段階で、スプリングフィールド大学は、ディビジョンⅢで全米 25 位未満、62 位以上ということになります。

ウースター工科大学はレギュラーシーズン最終週の一つ前のランキングが全米 9 位で、そのウースター工科大学と僅差のゲームができるのだとすると、あくまで予測の範囲ではありますが、ディビジョンⅢで全米 30 位前後にランクインするのではないのでしょうか。

#### ◆ヤングジャパン戦の見どころ

スプリングフィールド大学の選手個人のレベルは、データ不足のため分析できませんが、サイズもそんなに大きくはなく、アナウンスされているポジションに C がいない G と F 中心のチームです。ただ、F の常識が日本人の想像よりもかなり大きく、2m の選手が 2 人います。チームで 1 番多い身長は 190cm 台で、最低身長は 188cm です。

もし日本でこのようなチームがあるとすれば、十分な大型チームといえます。

今回のスプリングフィールド大学とヤングジャパンとの対戦ですが、高さに対し日本選手のスピードや個々の技術がどこまで通用するのかは一つの見どころです。

ヤングジャパンの 3 戦 3 勝も充分ありえると思いますが、3 連戦ということもあり予想通りにならない試合もあると思います。1 戦 1 戦のコーチの采配も興味深いところです。

ヤングジャパンの選手達の個性や可能性にもぜひ注目して観戦していただきたいと思います。

文責：一般財団法人 大阪府バスケットボール協会  
監修、写真提供：水谷豊氏（公益財団法人 日本バスケットボール協会 前理事）